（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社　健康第一調剤薬局		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟホーム　こもれび（つつじ）		
所在地	静岡県磐田市二之宮東21－4		
自己評価作成日	平成30年1月22日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2296900083-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1　柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、、運動会をやったり、年賀状を書いたり、外出では、イチゴ狩り、桜、紅葉を観に出掛け季節感を感じたり、夏祭り、地域の屋台見学、市のキャラクター、しっぺい訪問など楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所から早4年、家族からの大きなクレームや本人の感染症による羅漢もなく、毎日が穏やかにつつがなく過ぎていて、利用者が祈願した絵馬にオリンピックを応援する言葉が躍っていることからも安寧が伝わります。法人が定年を65歳まで延長したこともあって全員が正職員という安定感とともに、12名中9名が介護福祉士との優良なケアチームで、受験対象年が近づくと「私も取得しなくちゃ」との気持ちに自然になれる効用も生まれています。またこれまでも看取り実績はありますが、本年度は3ヶ月という長期だったことで、家族や親戚が入れ替わり立ち代わり訪れ、お別れを惜しみ偲ぶ看取りができ、職員も学びを深めています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念はグループホーム内に掲示してある。職員の心得は休憩室に掲示してある。今年の個人目標は、常に意識するように自分のロッカーの貼り、毎日確認できるようにしている。目標に関しては、4月、7月、12月に面談して振り返り、意識づけをした。	理念をベースに、「正論だからといって感情が上をいく事がない様にします」といった、現場に起こる課題に沿った全体目標を職員間の協議で5つ決めています。それに照らして個人目標も作成し、賞与面接等の機会を利用して達成度の振り返りもおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加した。又、地域の商店を利用している。秋祭りには、地域の屋台が施設内に入り、踊りを魅せてくれた。市民マラソンは、施設の前で応援した。ボランティアのも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。市民病院の研修に参加している。	日舞、ギター、手品、歌唱、フラダンス、オカリナ、紙芝居など多様なボランティア訪問が月１度程度あります。持ち帰り寿司を桶買いしたり、喫茶店で珈琲を味わったり、コンビニエンスストアや菓子店で買い物したりと、地域資源を利用するよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。防災では、福祉避難所として協力している。地域の飲食店や施設には事前に連絡をとり、受け入れてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対しての取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。身体拘束委員会も同時に開催している。	毎回管理者が「今回はこのテーマで～」と概ね決めて発表し、そのことについて諸所意見を挙げてもらう、という方法を継続しています。自由に言える場として、出席の家族から職員の報連相へ苦言があったこともあり、歯磨き粉等の買い足しについて伝言板が設けられた例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市に入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。２年に一回、市の実地指導が行われている。昨年11月に2回目の実地指導が行われた。2回とも、指摘事項なし、助言事項なしと評価して頂いた。市から介護相談員が訪問している。市のマスコットにも訪問してもらった。	開所以来事業所連絡会、介護相談員と連携に係る取組みを続けるとともに、本年は磐田市の観光課にお願いして『しっぺい太郎（磐田市のゆるキャラ）』を招いています。キャラクターを模した手作りケーキやふんどしも用意してもてなし、しっぺい音頭で１日盛り上がりました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。身体拘束適正化委員会を運営推進会議の時、毎回開催いしている。	本年度の法改正に基づき身体拘束適正化委員会を設置して、法令の許容範囲とされる運営推進会議のなかで会議運営をおこなっています。総じてやんわりとした対応の職員ばかりですが、課題が全くないわけではなく管理者がフォローしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。入居者に対して、言葉遣いに気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。相談、苦情として受付をし、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。家族に対して依頼の一覧表を作っている。意見箱を置いている。	『こもれび通信』のフォーマットは統一されていますが、内容は個別で、一人ひとりの日常が浮き彫りとなった写真や記述が毎月家族に届いています。全員が正社員で顔ぶれが大きく変わらないことも併せて、家族の安心が担保されています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。個人面談を通常年2回、昨年は3回行った、職員は自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は職員と本人の要望や意見を聞き、反映している。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている	職員会議はありませんが、朝・夕の申し送りで業務改善の意見は挙がっています。また職員との個人面談も年2回と定まっているほか、管理者が状況を見て追加することもあり、12名全員が正職との強みを生かして管理者が一人ひとりの声に耳を傾けています。	法改正に伴い、新採者のオリエンテーションに本件を組み込むことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。昨年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。介護福祉士会より先生をお招きして勉強をする時がある。認知症実践者研修を1名受講し終了した。介護福祉士取得には、法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は毎月、管理者と話し合いを持ち、施設内の困った事や職員について相談に乗っている。他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。他の施設や介護で働きい方の実習を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は本人の不安が強いので特に気を付けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミニュケーションを大切に何でも言って頂ける信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の前の挨拶など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、ケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にしてもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。壁画にて、キーパーソン以外の方にも日常生活がわかるようにしている。面会に来ると見ている方は多い。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、墓参りに行っている。外出、外泊、面会は自由。	書道の得意な利用者が多くいて、毎月のボランティア訪問では芸能人のように歓迎垂れ幕で迎え入れ、どのボランティアも「嬉しい」「感激だ」と喜んでくださいます。家族と毎月墓参を重ねる人、これまでの理美容を続ける人も3名います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。体調が良くなり自宅に帰った利用者が、2年経ち体調が悪くなり家族から入所出来ないか問い合わせがあった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。	介護度が軽い人は他の利用者と話が合わず、日々不満を募らせているため、夜勤者が本人の不安な気持ちを聴くよう図っています。想いを記録するノートもなく、朝・夕の申し送りでは業務の事柄に終始するため、主に介護計画書の作成過程を通じて想いを共有しています。	利用者の声を拾ってゆくノートや仕組みがあると、なお良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。今まで使っていた椅子やタンスなど使用している方もいる。食事前に挨拶をしてもらったり、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。入居前のサマリーを読んで把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は不安になり、何度も起きてくる利用者がいるが、安心できるまでその都度職員は寄り添い話を聞きいている。毎日バイタル測定しており、健康管理に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画書を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。	介護記録をベースとして、『介護計画モニタリング表』を通じて計画作成担当者が職員や家族に聞き取り確認をおこない、サービス担当者会議を開催しています。その場の協議を経て計画作成担当者が介護計画書を作り、介護支援専門員がチェックをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせ頻回に検温している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを飲んでいる。眼科や整形外科の受診に付き添う事がある。家族の要望で、毎日ヨーグルトやヤクル、黒酢を飲んだり、豆乳にコーヒーを混ぜて飲んでいる方もいる。補聴器の電池を毎週交換している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイチゴ狩りに出かけたり、公園や交流館にでかけている。神社の初詣では近くの駐車場に止めさせてもらい、飲食店では、車椅子が出入りしやすい場所に配慮してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、、夜間24時間対応できる体制を確保してる。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。看取りも行っている。	月１度の訪問診療のある協力医に全員が変更しています。管理者も看護師で体調の変化には医療的な視点が随時入り、協力医も24時間365日オンコール体制で、「先生、けいれんです」との電話で夜中にも駆けつけてくださる真摯さに事業所では助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので浣腸など医療行為がいつでもできている。皮膚の状態は入浴時に看護師に診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。病院に、毎月空き情報を報告している。市民病院の研修に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話会いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は、24時間対応できる体制をとっている。昨年の看取りは亡くなる前に親しい方とお別れをし、前日は子供をお別れをした。	契約の際に重度化、看取りについて説明をおこなっています。普段の訪問診療においても、直に介護記録に記載くださる親切な医師は、直近の看取りの時も家族との話し合いの場に4度も同席くださり、家族と事業所双方の大きな安心となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むか、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やADEやり方を研修で教えている。急変時は救急車を呼んでいるが、呼ぶか呼ばないか悩む時は、協力医又は施設長（看護師）に連絡して指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。磐田市の福祉避難所となっている。昨年台風の被害で停電になり、施設では良い経験になった。ランタンを各自で用意してもらった。厨房と話し合いをした。	法定訓練2回ともに消防署の指導を得ています。大停電を経験して、ウォーターサーバ―水とともに米50㌔、紙皿・紙コップを200食、カセットボンベを通過常備し、今後は発電機の購入も予定しています。また家族にお願いして居室にはランタンを備えることとしました。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉がけを心掛けている。同じ事を何度もいったり、今した事を忘れますが、先ずは否定せず、受け入れ、何度も説明をしています。	本人を受容し、優しく語り掛けるように話す職員が少なくありません。食事が進まない利用者に無理に進めず、さりげなく下膳して、「美味しい栄養のある飲み物をどうぞ」と勧めていて、利用者も「頑張って食べなくてもいいんだ」といった安堵の表情を浮かべる様子を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床、就寝している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は新聞を読んだり、テレビを見たりし自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように昼寝したり、、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、化粧水をつけたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、結仕、洗物を手伝ってもらっている。利用者全員でしっぺいケーキやワッフルを作ったり、厨房から季節の行事食（おせち料理、恵方巻き、ちらしずし、夏祭りの焼きそば、クリスマスの時チキン）魚の解体ショー、握りずしを握ってもらっている。すしパーティーをやった	専門業者が階下で調理していて、清潔で栄養バランスがよい献立が毎食作り立てで提供されています。恵方巻きやお節といった行事食もありますが、これまで楽しんでいた外食が重度化で減るのは忍びないとして、スムージーやワッフル等の食イベントを月１回程度実施しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃瘻食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつの摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。体重も毎月測定し管理している。スプーンや器もその人の合う物にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。スポンジブラシを使っている、出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。ウロウロする様子からトイレに連れていっている。Pトイレは夜間のみ3台設置し、日中は使用していない。夜間、頻尿の方は協力医に相談している。夜間、オムツにせず、トイレにて排泄している。	頻尿でセンサーが10回、15回と鳴り、トイレ回数が増しているケースは難儀ですが、職員が尽力しています。一方で、本人の体力がなくなり、トイレまで辿り着けないことから夜間オムツとなった人が、ポータブルトイレを導入して失禁なく、気持ちの良い排泄に至っている例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に会った介助をしている。便秘の人で朝、冷水を取ったり、、ヤクルト、ヨーグルトをとっている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくなるような言葉がけや入るタイミングを合わせている。状態により、シャワー浴、清拭をやる事もある。	週2日を目安としていて、拒否には工夫を以てなんとか清潔を保つものの、「毎日入りたい」との希望には応えることができいない体制にあります。また片マヒ等重度化に対応できる可動式の浴槽ですが、現状はシャワー浴としていて、現在1名が湯に浸かることが遠のいています。	シャワー浴のときは足浴を足したり、季節風呂やBGM等、その人にとって気持ちがよくなる入浴についての配慮があると、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備（居室の温度、湿度、灯り等］安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。夜勤の時、目を通している。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように申し送りし、連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。家族が面会時嗜好品を持ってきて食べている。ボランティアの歌、踊りを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に希望を聞いて、イチゴ狩り、花見、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。外出時家族も一緒に公園に行った。ケーキ店など外食した。家族と自宅に帰ったり、美容室、墓参り、外食など気分転換を図っている方もいる。毎日,外気浴、日光浴をするようにしている。	職員意見から外気浴を増やすオペレーションが実現し、少しでも戸外に出ることにつながっています。遠出外出は以前ワゴン1台、軽3台で十分できましたが現在は全体に重度化となり、日程を分けるかピストンでないと難しい状況になっていますが、いちご狩りや花見に出ています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。百円均一では、職員が付き添い、好きなものを買った。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなど季節を感じられるようにしている。エアコン、加湿器を利用し、温度、湿度に注意している。ソファーでもくつろいでい	訪問時は鬼やお多福の作品が飾られ、またレクリエーション材も豊富で、行事やお出かけ時の写真も沢山貼り出しています。それらがリビングではなく、広い廊下の壁を利用しているため、寛ぎスペースとギャラリースペースがすみ分けられている点も居心地の良さを補佐しています。	レクリエーション材を保管する収納スペースを確保することを期待します（現在は植木鉢の裏側に置かれているため）。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファーで談笑する方もある。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、配偶者や思いでの家族の写真、母の日に送られた品物が飾ってある。使い慣れた化粧水や化粧道具、髭剃りを使用している。居室の洗面所の蛇口は本人のわかりやすい物に変えた方がいる。	表札はその人の好きなものが掲げられていて、押し花があれば「花がすきなんだぁ」とすぐ判ります。大好きな洋服をハンガーラックに下げていたり、伴侶の遺影に毎日水をあげ、ベッドに多機能ポケットを備えて利便性を高めていたりと、その人らしさが現れている様子を視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。テーブルは角のない楕円形をしている。		

（別紙4）　　平成　30　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2296900083		
法人名	株式会社　健康第一調剤薬局		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟホーム　こもれび（くすのき）		
所在地	静岡県磐田市二之宮東２１－４		
自己評価作成日	平成30年1月22日	評価結果市町村受理日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社第三者評価機構　静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町８番地１　柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成31年2月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

建物は明るく広く、フロア、廊下、居室などゆったりしています。1日の流れは概ね決めてあり、メリハリのある生活を送っています。認知予防に力を入れており、毎日工夫を凝らして行っています。車椅子の方も、歩行器を使用し歩行したり、手すりを持った訓練をやっています。毎月、行事担当職員が決まっており2か月前位から計画を立て、初詣、、運動会をやったり、年賀状を書いたり、外出では、イチゴ狩り、桜、紅葉を観に出掛け季節を感じたり、夏祭り、地域の屋台見学、市のキャラクター、しっぺい訪問など楽しみのある生活が送って頂けるように考えています。管理者が看護師であり、協力医の先生と連携がとれており、看取りもおこなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開所から早4年、家族からの大きなクレームや本人の感染症による羅漢もなく、毎日が穏やかにつつがなく過ぎていて、利用者が祈願した絵馬にオリンピックを応援する言葉が躍っていることからも安寧が伝わります。法人が定年を65歳まで延長したこともあって全員が正職員という安定感とともに、12名中9名が介護福祉士との優良なケアチームで、受験対象年が近づくと「私も取得しなくちゃ」との気持ちに自然になれる効用も生まれています。またこれまでも看取り実績はありますが、本年度は3ヶ月という長期だったことで、家族や親戚が入れ替わり立ち代わり訪れ、お別れを惜しみ偲ぶ看取りができ、職員も学びを深めています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念はグループホーム内に掲示してある。職員の心得は休憩室に掲示してある。今年の個人目標は、常に意識するように自分のロッカーの貼り、毎日確認できるようにしている。目標に関しては、4月、7月、12月に面談して振り返り、意識づけをした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加した。又、地域の商店を利用している。秋祭りには、地域の屋台が施設内に入り、踊りを魅せてくれた。市民マラソンは、施設の前で応援した。ボランティアのも慰問してもらっている。中学生の福祉実習も受け入れた。市民病院の研修に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症とその家族が全国をマラソンして走るラン伴で磐田の中継所として利用者と一緒に応援した。防災では、福祉避難所として協力している。地域の飲食店や施設には事前に連絡をとり、受け入れてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回、、民生委員2名、市介護保険課1名、包括支援センター1名、家族1名の方に出席頂き開催している。職員体制、苦情に対しての取組、医療体制、1日の流れなど、毎回内容を変えて、報告をしている。身体拘束委員会も同時に開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市に入居状況を報告し、事業所連絡会に出席している。２年に一回、市の実地指導が行われている。昨年11月に2回目の実地指導が行われた。2回とも、指摘事項なし、助言事項なしと評価して頂いた。市から介護相談員が訪問している。市のマスコットにも訪問してもらった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言を掲示し、施設全体で取り組んでいる。身体拘束に関する説明書、経過観察記録を用意した。事故のありそうな利用者は、カンファレンスを行い職員間で統一を図っている。身体拘束委員会を運営推進会議の時、毎回開催いしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設では、身体拘束について勉強会を開き、職員が周知徹底できるようにしている。利用者が入浴時は、観察し、内出血や傷に注意している。又、職員から報告をうけ確認している。介護記録には残している。入居者に対して、言葉遣いに気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度は勉強したことはあるが、理解は不十分である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、本人と家族が施設を見学し、契約を交わす時も十分な説明を行い、理解、納得の上で契約を交わしている。サービス提供加算を変更する時は、全家族に説明を行い、承諾書を頂いた後に変更した。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、職員から家族に近況を報告している。面会、介護計画変更時家族から意見や要望を聞いている。相談、苦情として受付をし、カンファレンスを行い、解決案を出し家族に報告している。家族に対して依頼の一覧表を作っている。意見箱を置いている。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員の意見に耳を傾けている。個人面談を通常年2回、昨年は3回行った、職員は自己評価表、悩みを記入し、提出している。その表をみながら管理者は職員と本人の要望や意見を聞き、反映している。事故報告書や毎日のミーティングで改善案を聞いている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数の応じて給与の上乗せがあり、資格手当を支給している。昨年から定年を60歳から65歳に延ばした。時間外勤務がほぼない。個人面接の時、本人の良い所を話している。休み希望を聞いて全員希望通りにとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内では、研修を毎月行っている。介護福祉士会より先生をお招きして勉強をする時がある。認知症実践者研修を1名受講し終了した。介護福祉士取得には、法人より実務者研修の費用の半分の補助がでている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は毎月、管理者と話し合いを持ち、施設内の困った事や職員について相談に乗っている。他のグループホームが同一法人になったので、少しずつ職員が研修に行き学んでいる。他の施設や介護で働きい方の実習を受け入れている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人の困っている事、不安な事、要望、入居前の様子を聞き、支援に結びつけている。入居時は本人の不安が強いので特に気を付けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の困っている事、不安な事、要望を聞き、コミニュケーションを大切に何でも言って頂ける信頼関係作りに努めている。家族からも本人からもアセスメントする時、一つ一つ確認してる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き取り、その意向に沿えるような介護を心掛けている。サービスを導入する時、管理者と職員と担当者会議を行い、計画書に基づいて支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活のなかで洗濯物干し、洗濯物たたみ、テーブル拭き、食事の前の挨拶など本人の出来る事で役割をもって生活を送っている。毎月のレクでは、ケーキを作りなど入居者、職員一緒に楽しく作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気を作り、面会には沢山来てもらっている。面会時、家族との時間を大切にしてもらえるように居室にて過ごしてもらっている。毎月1か月の様子がわかるように、こもれび通信を発行している。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟、友人、近所の方など面会に来ている。壁画にて、キーパーソン以外の方にも日常生活がわかるようにしている。面会に来ると見ている方は多い。行事にも家族に参加してもらっている。自宅に帰ったり、墓参りに行っている。外出、外泊、面会は自由。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置については、気の合う利用者同士、状態の同じ利用者同士を隣席にしたり、トラブルがある時は席の配置を変えている。自由に席を移動し談笑する様子がある。話の少ない利用者には職員が声掛けを多くしている。全員が参加出来るレクを行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した時はとてもよくやって頂いたと家族から感謝された。体調が良くなり自宅に帰った利用者が、2年経ち体調が悪くなり家族から入所出来ないか問い合わせがあった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活の様子を聞いている。入居後、表情、行動、会話から感じた事は職員間で共有しケアにつなげている。定期的に介護計画書を作成前に本人と家族の要望を聞き、カンファレンスをし、本人に合った生活支援が出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの起床、就寝時間、職業、趣味、好きな事をアセスメントし、生活に取り入れている。今まで使っていた椅子やタンスなど使用している方もいる。食事前に挨拶をしてもらったり、縫い物が得意な方には雑巾やほころびを縫ってもらっている。入居前のサマリーを読んで把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設には、1日の流れはあるが、一人ひとりの病気や体力に合わせて臥床、離床している。夜間は不安になり、何度も起きてくる利用者がいるが、安心できるまでその都度職員は寄り添い話を聞きいている。毎日バイタル測定しており、健康管理に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を聞き取り、ケアマネと職員とカンファレンスを行い、意見を出し合い、介護計画書を立て、ケアに繋げている。モニタリングも本人と家族に話を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、日々の様子やケアの実践を記録し、職員間で情報を共有している。申し送りは、朝、夕2回行い、報告し、気づいた点は見直しをしている。さらに、変わった事は全職員に共有できるように連絡ノートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に合わせ頻回に検温している。食事量が少ない時は、栄養ドリンクを飲んでいる。眼科や整形外科の受診に付き添う事がある。家族の要望で、毎日ヨーグルトやヤクル、黒酢を飲んだり、豆乳にコーヒーを混ぜて飲んでいる方もいる。補聴器の電池を毎週交換している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイチゴ狩りに出かけたり、公園や交流館にでかけている。神社の初詣では近くの駐車場に止めさせてもらい、飲食店では、車椅子が出入りしやすい場所に配慮してもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に協力医に変えてもらい、月1回定期的に往診してもらっている。協力医は休日、、夜間24時間対応できる体制を確保してる。体調が悪い時は、連絡をし対応してもらっている。職員は全面的に協力医を信頼している。看取りも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はいつもと違うと感じた時は、24時間看護師に報告し、支持を仰いでいる。細かな事でも看護師に報告し、相談している。職場内に看護師がいるので浣腸など医療行為がいつでもできている。皮膚の状態は入浴時に看護師に診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は訪問し、本人の様子を聞いてくる。又、情報提供をしている。退院時は退院カンファレンスに参加し医師、相談員、看護師、理学療法士から情報収集している。病院に、毎月空き情報を報告している。市民病院の研修に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、利用者、家族の思い、生き方を尊重し、家族と協力医と事業所は話会いを持ち、本人、家族の希望と事業所で出来る合意の所で支援していく。協力医は、24時間対応できる体制をとっている。昨年の看取りは亡くなる前に親しい方とお別れをし、前日は子供をお別れをした。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所する時、全員に延命処置は望むか、望まないか、決めていないを選んでもらっている。看護師が職員に応急手当やADEやり方を研修で教えている。急変時は救急車を呼んでいるが、呼ぶか呼ばないか悩む時は、協力医又は施設長（看護師）に連絡して指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回磐田消防署立ち合いで利用者が参加し地震と風水害の避難訓練を行った。磐田市の福祉避難所となっている。昨年台風の被害で停電になり、施設では良い経験になった。ランタンを各自で用意してもらった。厨房と話し合いをした。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格も違い、抱えている不安も違うので、本人に寄り添った言葉がけを心掛けている。同じ事を何度もいったり、今した事を忘れますが、先ずは否定せず、受け入れ、何度も説明をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ希望に添えられるように心がけているが、時間が決められているものもあり、できないものもある。無理強いする事のないように、本人の意志も取り入れ入浴や臥床、就寝している。希望を聞いて行事担当が外出場所を決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れがあり、皆で一緒にレクや運動をする時があるが、それ以外の時間は新聞を読んだり、テレビを見たりし自由に過ごしている。その方のペースで生活出来るように昼寝したり、、起きたり個々の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は、髭の手入れをし、女性は、化粧水をつけたり、眉を書いたりしている。本人の意志で服を選んでいる人もおり、毎日お化粧している人もいる。洗顔や服の着脱の介助を支援している。毎月美容師が訪問している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、結仕、洗物を手伝ってもらっている。利用者全員でしっぺいケーキやワッフルを作ったり、厨房から季節の行事食（おせち料理、恵方巻き、ちらしずし、夏祭りの焼きそば、クリスマスの時チキン）魚の解体ショー、握りずしを握ってもらっている。すしパーティーをやった		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃瘻食、カロリー制限食、刻み食、ソフト食、トロミを付けたり対応している。毎食とおやつの摂取量、水分を把握し、食事の様子を観察し、体調管理をしている。食事が食べれない時、高カロリードリンクを購入してもらい飲んでいる。体重も毎月測定し管理している。スプーンや器もその人の合う物にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食が一人ひとり口腔ケアを行っている。出来ない方には一部介助、全介助を行っている。スポンジブラシを使っている、出来る方にも声かけをしている。入れ歯は洗浄液につけている。訪問歯科で治療している方もいる。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に行った時間を記録して、どのくらいの間隔でトイレに行くかわかるようにしている。ウロウロする様子からトイレに連れていっている。Pトイレは夜間のみ3台設置し、日中は使用していない。夜間、頻尿の方は協力医に相談している。夜間、オムツにせず、トイレにて排泄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、歩行訓練やラジオ体操を行い、腸の蠕動運動を促している。利用者は、それぞれ排便習慣があるので、回数、排便時間、性状など理解して、その人に会った介助をしている。便秘の人で朝、冷水を取ったり、、ヤクルト、ヨーグルトをとっている。水分摂取は一日5回とっている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日、時間は決めてあるが、本人の体調や都合により変更したり、拒否のある時は無理強いせず、曜日を変更している。又、入るのを拒否する人に対しては、入りたくなるような言葉がけや入るタイミングを合わせている。状態により、シャワー浴、清拭をやる事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備（居室の温度、湿度、灯り等］安眠できるようにしている。寒い日は、エアコンを付けたり、乾燥時は加湿器を付けている。利用者の体調に合わせて昼寝したり、自分で就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテに薬の情報を入れ、いつでも目的、副作用、用法、用量が見られるようにしている。夜勤の時、目を通している。薬の変更がある時は、職員全員にわかるように申し送りし、連絡ノートに書いている。個人の検温表の欄に薬の開始時期を記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、趣味など活かせるように、生活の中に取り入れている。生活の中で洗濯干しや畳み、縫い物など役割をもってもらっている。月に1度、外出、外食し気分転換を図っている。家族が面会時嗜好品を持ってきて食べている。ボランティアの歌、踊りを楽しみにしている。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に希望を聞いて、イチゴ狩り、花見、紅葉狩りなど季節を感じられるようにしている。外出時家族も一緒に公園に行った。ケーキ店など外食した。家族と自宅に帰ったり、美容室、墓参り、外食など気分転換を図っている方もいる。毎日,外気浴、日光浴をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者よりお金を預かり、外出時に好きな物を買ったり食べたりしている。百円均一では、職員が付き添い、好きなものを買った。施設内でおやつを作ったりしている。月末に集計して、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望で携帯電話を持ち込み電話をしている方がいる。時々手紙を出している方もいる。利用者全員が家族や知人に年賀状を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア、廊下、居室、トイレなど明るく、ゆったりとした空間です。自分の居室がわかりやすいように好きな物を目印にしている。壁画は利用者が制作した物を飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなど季節を感じられるようにしている。エアコン、加湿器を利用し、温度、湿度に注意している。ソファーでもくつろいでい		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席は気の合う利用者同士配慮している。トラブルになった場合は席や居室を変える事もある。居室で過ごしたい方は居室で過ごす方もいるが、時々声掛けしている。ソファーで談笑する方もある。つつじとくすのきの利用者も自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、姿見、マッサージ機などがあり、配偶者や思いでの家族の写真、母の日に送られた品物が飾ってある。使い慣れた化粧水や化粧道具、髭剃りを使用している。居室の洗面所の蛇口は本人のわかりやすい物に変えた方がいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全廊下には手すりが付いており、トイレにはトイレの絵を掲示しわかりやすくしている。手すりを利用し、下肢のトレーニングを実施している。くすのきとつつじの広いフロアと廊下を利用して、歩行練習をしている。テーブルは角のない楕円形をしている。		